

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成27年9月30日)

Table with 4 columns: 事業コード, 事業名, 事業種別, 路線名等, 箇所名, 総合計画との関連. Includes details for project 27-農-終-01 in the Nagaoka region.

1. 事業の概要

Main evaluation table with multiple rows. Includes sections for: 事業の背景及び目的, 事業期間, 事業規模, 事業費内訳内容及び要因変化, 目標達成率, 自然環境の変化, 社会経済情勢の変化, 事業終了後の問題点及び管理・利用状況.

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ●受益者 ●一般県民 (時期:H27年9月) ②満足度把握の方法 ●アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況
	アンケート調査の結果、ほ場整備の総合評価について、受益者(回答者89名)の76%が「満足・ほぼ満足」、地域住民(回答者26名)の65%が「実施してよかった」と評価しており、一定の満足度が得られている。
上位計画での位置付け	「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」 戦略作物等の産地づくりと一体となったほ場整備を推進し、併せて農業法人など地域の中核となる経営体への農地集積を促進することにより、効率的な農業経営への転換を図る。
関連プロジェクト等	なし
前回評価結果等	●選定または継続 改善 見直し 保留又は中止
	①指摘事項 なし
	②指摘事項への対応 なし

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C アンケート調査の結果、ほ場整備の総合評価について、受益者(回答者89名)の76%が「満足・ほぼ満足」、地域住民(回答者26名)の65%が「実施してよかった」と評価しており、一定の満足度が得られている。	○A ●B
	②事業の効果 ○A 達成率100%以上 ●B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 現時点の担い手等への農地集積割合の達成率は82%となっており、一定の効果が発現している。引き続き、集積率向上に向けて取り組んでいる。	○C
効率性	①事業の経済性の妥当性 ●A ○B ○C 経済性の判断として費用便益費は、1.0以上に対して2.35であり、経済性は妥当である。	●A ○B
	②コスト縮減の状況 ○A 縮減率20%以上 ○B 縮減率20%未満 ○C 縮減なし	○C
総合評価	○A (妥当性が高い) ●B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 水稻を基幹としつつ、当地区の担い手が地区外も含め大豆やネギなどの複合経営に取り組むなど、事業の効果が発現している。 有効性、効率性とも評価が高く、農家や地域住民からも高評価を得ており、事業実施は概ね妥当。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

ほ場整備を契機として経営体を育成し、農地集積による経営規模の拡大を図るよう今後も指導を行っていききたい。また、コスト縮減や環境配慮に積極的に取り組むとともに、地域農業の目指す姿に応じた整備、更なる複合経営への取り組みや戦略作物の産地づくりを推進する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A(妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	
B(概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C(妥当性がない)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	